

ポーリー著『ロシア民族誌』

セント・ペテルブルグ 1862年刊

Pauly, Théodore de: Description ethnographique des peuples de la Russie.
Saint-Pétersbourg, F. Bellizard, 1862. (K383.138-P)

司書長 平井 紀子

「この著作は数多いロシア民族・服飾文献のなかでも、もつとも美しく、また極めて珍しい稀観本である」とフランスの服飾文献目録コラの書誌では本書を称賛している。

63枚の多色石版画で描かれたロシアの民族服は石版画独特の重厚さがあり、華麗で見応えがある。53×39cmの大型フォリオ判。装丁は黒染めのモロッコ革装で三方金、表紙と背には金箔の唐草模様がほどこされた豪華本である。400ページにもおよび大著は10キロもあろうか、一人で持ち運ぶのも容易ではない。我が図書館貴重書室のなかでも存在感のある稀観本である。

著者ポーリーはロシア帝国地理協会の会員で、本書は彼とそのメンバーである多くの学者たちにより、協会にある原画、原資料をもとにロシア民族の服装、風俗を描いている。解説は仏語、図版キャプションは仏語とロシア語で書かれている。

本書はロシア帝国建国1000年に当たる1862年に記念出版物として刊行されたものであるが、草稿は1857年に当時の国王であるアレクサンドル二世（在位1855-1881年）に献上された国を挙げての出版物であった。

18世紀のロシア帝国はピョートルI世（在位1682-1725年）によって「西方への窓」が開かれ、ヨーロッパの進んだ文化が取り入れられた。科学、学術の分野においても、文字や暦法の改革、ロシア最初の新聞の発行、大学や専門学校の開設などロシア文化の基礎が創られた。

「科学アカデミー」もその一つで、パリやベルリンのアカデミーにならってペテルブルグ（レニングラード）に1725年に開設されるが、以後ロシアの学芸の中心となったところである。「科学アカデミー」は1749年に歴史部門を設け、ここではカムチャツカの探検や帝国地理の作成など地理学、

民族学の調査が着手されるが、その成果には目覚ましいものがあった。考古学史料の蒐集や文献学の研究も行われた。

本書の評価が高いのは図版が優れていることもさることながら、巻末にこの「科学アカデミー」で制作された三つの重要な資料が発表されたことにある。一つは科学アカデミー解剖学美術博物館所蔵の小ロシア人、スウェーデン人、タタール人、カルムイク人、エスキモー人など15の主要な民族の頭蓋骨の標本を示した図版である。二つは「ロシア民族統計一覧」で、1859年に会員ディルケール（R. d'Ereker）がロシア国内に居住する部族の人数を地域ごとに調査した、いわば人口統計である。三つは「民族分布地図」で、これも同じくディルケールが1862年にロシア国内に住んでいる人種を部族ごとに色分けをし、どこにどんな部族が居住

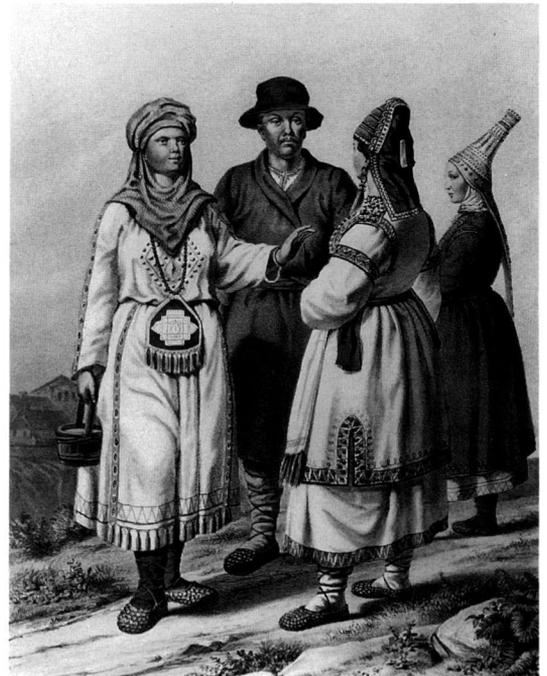


図1 ヴォルガ川流域の諸族

しているかを表した着色の見開き地図である。これらの民族学的研究、とりわけ非スラヴ系、特にアジア系諸民族に関しては、本書において初めて詳細な調査と分析が発表されたもので民族学史上、画期的な研究として本書の価値を高めている。さらにこれらの新たな分野の研究は歴史学や経済学にも影響を与えた。

本文は五つの民族の章立てで構成されている。

1. インド・ヨーロッパ語族 (図版23枚 スラヴ民族—ロシア人, セルビア人, ブルガリア人, ポーランド人 ラテン語系族—ルーマニア人, ペルシアン, アルメニア人 ロシアに居住するインド・ヨーロッパ語族—ドイツ人, スウェーデン人)
2. コーカサス民族 (図版6枚 グルジア人, チェコ人)
3. ウラル・アルタイ語系族 (図版27枚 サモイア人, フィン人, モルドヴァ人, タタール人, モンゴル人)
4. シベリア東部民族 (図版4枚 ユーカギル語族)
5. アメリカ・ロシア族 (図版2枚 アレウト語族 エスキモー語族)

各章では各民族・部族居住地の地理的な概況や

民族的事項などが詳細に解説してある。ロシアは多民族国家であり、本文の構成でも分るように帝国ロシア時代の領土、すなわち旧ソ連邦の地域に加えてポーランド、チェコ、スウェーデンなどの東欧や北欧の一部を含み、ロシアといっても東ヨーロッパの民族服も対象としている。

これまでの民族服文献はどちらかといえば、図版中心で解説は少ないようであったが、本書は解説に重点がおかれており、「民族誌」とタイトルが付けられているのも頷ける。

序文には本書に至るまでのロシア民族服文献の出版過程が述べられているが、特に「ロシア民族服」の古典といわれているゲオルギ画『ロシア帝国民の生活様式の図集』¹⁾の発行経緯に触れている。このゲオルギ版は1770年代の出版で、出版当初は解説がなく、あまり評判はよくなかったらしい。本館には解説なしの図版をまとめたものが所蔵されているが、その図版は手彩色銅版画で描かれ、精緻で美しく、まことにみごとであり、本館所蔵のロシア民族服の本のなかでも最高の図版集と評価している。書誌によるとゲオルギは民族服を描いた画家と受け取れるが、本書では、彼は解説を書いた著述家で、画はロート (H. M. Roth) という版画家による、と記されている。だが、これにも諸説がある (詳細については割愛するが)。

ともあれ、本書とゲオルギの民族服はロシア民族服文献の両雄といえよう。

前ページの図1は3章のウラル・アルタイ語系族、フィン語派のヴォルガ川流域に住む諸族。この図版はリッパーハイデ服飾文献目録にも紹介されている。左のポーチのような袋を提げて籠を持った婦人はチュヴァシ族。となりの男性はモルドヴァ人。後ろ向きの婦人はチュレミス人。

図2はソ連邦アジア東北部カムチャツカ半島の原住民カムチャダル族の男性。毛皮獣の狩猟、漁労を生業とし、犬やトナカイを家畜としていた。

注) Georgi, J. G.: *Beschreibung aller Nationen des russischen Reichs*. 1776-1780 (K383.138-G)



図2 カムチャダル族